

最強の毒虫・ムカデ



6月26日（土）朝、生物室前の廊下を一直線に走り抜ける黒い影。陸上の無脊椎動物では最も強い毒性を持つ恐ろしい毒虫、ムカデである。写真のムカデは、頭（右側）が青黒いことからオオムカデ目の「**アオズムカデ**（青頭ムカデ）」の幼体と思われる。

普段は、校庭（前庭や中庭）の落ち葉や土中、朽ち木や石の下などに生息し、昆虫やクモなどを食べている。このアオズムカデは、成長すると**体長10cm程度**になり、5年くらいの寿命をもつと推定されている。たまたま、暗い場所とエサを求めて校舎内に迷い込み、夜中、階段を登って生物室までやってきたのだろう。（よりによって、生物室とは。これで2匹目。）ちなみに、ムカデは分類学上、節足動物門ムカデ綱に属しており、「毒虫」といっても昆虫ではありません。

ムカデは、接触した瞬間に、大あご（右下の写真）で咬みつき、毒液を注入する。ムカデの毒は、蜂の毒と同様に**神経毒**で、患部組織を破壊するため、かなり痛みが激しく、患部が腫れ、ときに発熱することもあるという。致命的なことはないというが、夜寝ている間に侵入したムカデに咬まれ、数日間、激痛に悩まされた例も多いという。

「**最強の毒虫**」これはもう嫌われる資格十分であるが、運動会の定番種目「**百足競争**」や藤原秀郷の「**むかで退治**」の伝説など、意外に身近で親しみがあるのも事実である。さらには、七福神の一人「**毘沙門天**」のお使いであるともされていた。「毘沙門天」は商売繁盛の神であったため、おアシ（三お金）がたくさんある百足（ムカデ）が**お使い**となったのである。「毒虫」にして「**お金持ち**」。イメージとしては結びつかないが、案外「**元祖ダークヒーロー**」だったのかもしれない。



↑「咬まれると痛いよ」